

特別史跡 三内丸山遺跡
年報 17

特別史跡三内丸山遺跡 年報

— 17 —

平成二十五年
度

平成 25 年度

青森県教育委員会

青森県教育委員会

特別史跡三内丸山遺跡
年 報

— 17 —

平成 25 年度

青森県教育委員会

序

特別史跡三内丸山遺跡は、縄文時代における集落の全体像や生活、自然環境等とその変遷を具体的に解明することができる、日本を代表する縄文遺跡と評価され、平成12年11月に特別史跡に指定されました。また、平成15年5月には、三内丸山遺跡の出土品1,958点が重要文化財に指定されています。

青森県は、三内丸山遺跡を貴重な歴史的遺産として保存し、平成6年度から遺跡の整備と一般公開を行い、多くの方々に三内丸山遺跡を見学していただきました。

平成24年度は、第36次発掘調査を行い、北盛土の発掘調査報告書を刊行しました。また、最新情報展、企画展、縄文教室、三内丸山遺跡報告会、季節ごとの祭りなどを開催したほか、三内丸山遺跡魅力アップ推進事業を行い、新たな魅力を創出し、国内外へ発信して保存活用の体制整備と新たな見学者の増加を目指すこととなりました。

この年報は、平成24年度における三内丸山遺跡の整備・調査研究・活用事業の概要についてまとめたものです。本書が三内丸山遺跡の理解や埋蔵文化財の保護と研究に寄与できれば幸いです。

刊行にあたり、三内丸山遺跡の保護・活用に御支援、御指導を賜りました皆様に対し深く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層の御尽力をお願い申し上げます。

平成26年2月

青森県教育委員会

教育長 橋本 都



発掘調査現地説明会



家づくり体験 軸組組み立て作業

目 次

I 平成 24 年度の事業について

① 整備状況

- (1) 平成 24 年度の整備の内容 1

② 調査研究

- (1) 三内丸山遺跡調査 1
(2) 関連遺跡調査 3
(3) 遺跡環境調査 4
(4) 三内丸山遺跡発掘調査委員会 4
(5) 特別研究推進事業 5

③ 普及啓発

- (1) シンポジウム等 8
(2) 企画展及び最新情報展 9
(3) 三内丸山縄文教室 9
(4) 三内丸山遺跡魅力アップ推進事業 11
(5) 印刷物の発行 15
(6) 資料貸出 15
(7) 講演会等 16
(8) 縄文時遊館で開催したイベント 17

II 平成 24 年度の見学者動向について 19

III 研究ノート

① 「三内丸山遺跡北盛土出土土器の圧痕調査の成果とその意義」

小畑 弘己・真邊 彩

(熊本大学文学部・鹿児島大学大学院人文社会科学研究科)

..... 22

② 「縄文ポシェット」の復元製作実験」

佐々木由香・本間一恵・高宮紀子・吉田雅子・小林和貴・能城修一・鈴木三男

..... 54

IV 特別研究推進事業成果概要報告

① 個人研究 A 「円筒土器文化における文様割付の研究」

小林 謙一 (中央大学文学部) 61

② 個人研究 B 「三内丸山遺跡からみた貯蔵食物害虫 *Sitophilus* 属の生態と進化過程の研究」

小畑 弘己 (熊本大学文学部) 76

V 日誌抄録 86

I 平成 24 年度の事業について

① 整備状況

(1) 平成 24 年度の整備の内容

公開遺構の整備

平成 7 年度以降の遺跡の公開に伴い、劣化が進んだ箇所については修復・補充等の保存処理を継続的に行っている。平成 24 年度は北盛土

で実施した。作業内容は以下の通りである。

○北盛土…覆屋の劣化による雨漏りで生じた凹部および壁部に修复合材を充填した。また、全体に防カビ・防藻のための薬剤を散布し、全面の清掃を行った。

② 調査研究

(1) 三内丸山遺跡調査

遺跡の全体像、特に集落構造の変遷や、保存・活用、整備計画の策定・推進のための資料収集を目的とし、学術調査を継続して行っている。

また、今後の長期的な整備・活用に備えて、環境調査や関連する他遺跡の調査を実施した。

○第 36 次発掘調査

平成 24 年度は、遺跡西部に位置する西盛土の調査と西盛土西側の予備調査、遺跡北端部の予備調査を行った。西盛土は、三内丸山遺跡における集落の変遷を考える上で重要な遺構であるため、範囲や形成過程、詳細な時期などを調査し、今後の保存や活用に役立てていくことを目的とした。

- ・調査期間：平成 24 年 5 月 22 日～10 月 19 日
- ・調査面積：625m²
- ・主な出土遺物：土器、石器、土・石製品等ダンボール箱 43 箱
- ・調査成果

①西盛土東側の範囲確認

盛土の特徴的な層相の一つであるローム質土主体の層の途切れる部分が、M、U、P、N トレ

ンチで見られたため、西盛土の東側範囲が確定した。

②旧取り付け道路調査区で確認されているローム質土主体の盛土と西盛土との関係を確認

西盛土東側は、旧取付道路建設予定地調査区域と呼称され、平成 6 年度に試掘調査が実施されている。縄文時代の遺構として、盛土 1 か所、竪穴建物跡 3 棟、土坑 1 基が確認されている。盛土はⅢ - 1、Ⅲ - 2 層に分層され、Ⅲ - 2 層からは円筒上層 a～c 式期、Ⅲ - 1 層からは円筒上層 d 式期の遺物が出土する。Ⅲ - 1 層は暗黄褐色土層で、西盛土で確認されている二次堆積



第 36 次調査区の位置

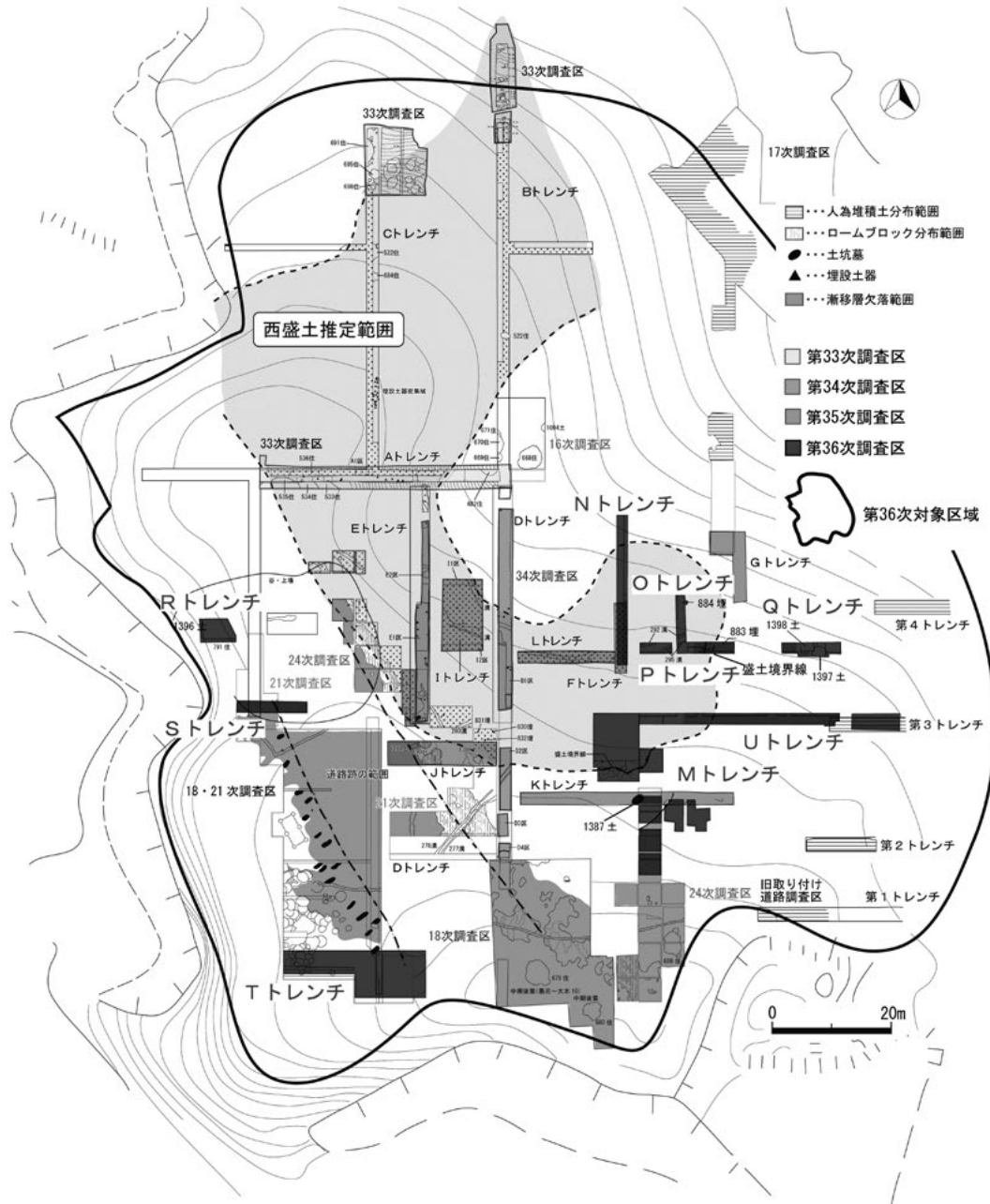


図1 第36次調査区周辺の遺構分布図



1397・1398号土坑（東から）

のローム質土層に類似している。西盛土のローム質土層上位からは円筒下層d式～上層d式期の遺物が出土している。これらの盛土は土質、出土遺物の時期が類似し、削平部分の両側斜面に分布することから、縄文時代中期中葉に行われた造成の痕跡と推測される。

③他の遺構との関係の把握

盛土周辺には、土坑墓1基、埋設土器2基、



Pトレンチ 削平部分と盛土の境（東から）

貯蔵穴3基、柱穴2基が確認された。土坑墓は層位と形態から中期後葉～末葉以降のものと推測される。貯蔵穴や柱穴はいずれも盛土の上位層に覆われていたため、それ以前の遺構である。

④西盛土西側の予備調査

Rトレンチで、断面フラスコ状の貯蔵穴が確認され、その周囲にも遺構の分布する可能性が確認された。Tトレンチの位置する斜面部分では、西盛土や旧取付道路建設予定地調査区域で確認されているローム質土主体の盛土と類似する土層が確認された。

⑤遺跡北端部に位置する遺物包含層の予備調査

すべてのトレンチで、二次堆積のローム質土が確認された。Bトレンチでは地表下1mまで掘り下げたが、地山は確認されなかった。ローム質土からは土器が破片で出土する。また、つぶれた土器が面的に出土する部分も見られた。



北端部Bトレンチ 東壁土層断面（西から）

(2) 関連遺跡調査

①寺野東遺跡

寺野東遺跡は、栃木県小山市にある縄文時代後期前半から晩期にかけての遺跡で、巨大な環状盛土遺構で注目を集めた。発掘調査は、平成2年から平成7年度まで行われ、環状盛土遺構や水場遺構などが発見されている。これまでにない大規模な縄文時代の遺構の重要性から、平成7年11月に国史跡に指定されている。

（財）とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターの調査担当者から遺跡の概要説明を受けた後、環状盛土などについて聞き取りを行った。

盛土は、東側の台地が削られていることから完全な環状であったかは不明であるが、西側の残存部分は環状である。環状盛土にはローム質土層と黒色土が交互に堆積している。内側の低い中央窪地と呼称される部分では、上位に存在するはずのローム層が欠落している。盛土に二次堆積するローム質土層と類似していることから、中央窪地で削ったローム層が盛りあげられた盛土である可能性が高い。中央窪地には地山を削り残したマウンド上に石敷遺構が確認されており、祭祀的な構築物である可能性がある。環状盛土は、いくつかのマウンドが環状になったものであるため切れ目があり、その部分が外部と中央窪地とをつなぐ出入口であったと推測



寺野東遺跡 盛土の高まり

される。

ローム層を削って盛るという行為は、時期は異なるが、三内丸山遺跡での盛土の形成過程と類似する。ローム層を切り盛りするという行為を考察する上で大変参考になる事例である。

②井野長割遺跡

井野長割遺跡は、印旛沼南岸の台地上に位置する縄文時代後期から晩期にかけての環状盛土を伴う遺跡である。昭和44年に小学校の敷地整地工事によって発見された遺跡で、昭和45・48年に慶應義塾大学が調査を行った後、佐倉市教育委員会や（財）印旛郡市文化財センターの調査が行われ、その重要性から平成17年に国史跡に指定された。

佐倉市教育委員会の調査担当者から、遺跡の概要説明を受けた後、環状盛土などについて聞き取りを行った。

調査は部分的であるが、環状盛土遺構は、いくつかのマウンドで構成されており、中央窪地を囲むように位置していることが分かっている。マウンドの切れ目からは道が延びることが確認されており、それに沿った墓も発見されている。中央窪地は、削平が行われており、それに伴うローム質土で、盛土をしたり、谷を埋めたりしている。中央窪地内には南北に並ぶ2基のマウンドがあるため、象徴的な施設である可能性がある。

盛土の土層中と東側斜面では、ヤマトシジミを主体とする地点貝塚が発見されている。縄文時代後期の集落は、環状盛土遺構の外側にあるが、晩期には内側に位置するようになる。

井野長割遺跡の環状盛土と中央窪地の形態や形成過程などは、寺野東遺跡と非常に類似点が多い。中央窪地に位置する石敷遺構や2つのマウンドは、環状盛土に囲まれた空間の祭祀的性格を示唆する。

両遺跡の環状盛土と中央窪地のあり方や計画



井野長割遺跡 盛土の高まり

的な土地利用方法は、三内丸山遺跡の削平部分と盛土の関係や、集落の利用方法を考える上で重要な事例である。

(3) 遺跡環境調査

遺跡の長期的保護に向けて、その具体的な対応を検討するための基礎的な資料を得るため、覆屋の室温、湿度等について定期的にデータ収集を行った。

(4) 三内丸山遺跡発掘調査委員会

三内丸山遺跡に関する学術的な解明や継続的な発掘調査計画検討のため、専門家による委員会を平成9年度から設置している。委員の任期は2年であり、年3回会議を開催している。

・委員長

岡村 道雄（奈良文化財研究所名誉研究員）

・副委員長

西本 豊弘（国立歴史民俗博物館教授）

・委員

鈴木 三男（東北大学名誉教授）

辻 誠一郎（東京大学大学院教授）

小林 克（秋田県埋蔵文化財センター主任専門員）

玉田 芳英（奈良文化財研究所考古第二研

研究室長)

・顧問

小山 修三 (吹田市立博物館長)
 小林 達雄 (國學院大学名誉教授)
 大塚 和義 (大阪学院大学教授)

○第 1 回発掘調査委員会 (平成 24 年 7 月 13 日)

開催場所：縄文時遊館会議室 (以下同じ)

検討内容：平成 24 年度の発掘調査について

発掘調査の現地指導

特別研究推進事業について

第 3 期発掘調査計画について

総括報告書について

○第 2 回 (平成 24 年 9 月 25 日)

検討内容：平成 24 年度の発掘調査について

発掘調査の現地指導

特別研究推進事業について

総括報告書について

○第 3 回 (平成 25 年 3 月 19 日)

検討内容：平成 24 年度の発掘調査成果について

平成 25 年度の発掘調査について

特別研究推進事業について

総括報告書について



発掘調査委員会の様子



委員による現地指導

(5) 特別研究推進事業

遺跡の全体像解明と縄文文化の解明を進めるため、平成 10 年度から行っている。平成 24 年度は、総合的・学際的研究を展開し、より一層遺跡の全体像の解明と縄文文化に関する研究を進めるため、関連する研究を公募し、研究を委託した。

個人研究は、「円筒土器文化」または「三内丸山遺跡」に関連する、遺跡、遺構・遺物などを対象とした、個人による研究である。

共同研究として平成 24・25 年度には円筒土器文化総合研究データベース作成を行い、三内丸山遺跡の全体像解明につながる、学際的な研究を行う。

① 個人研究

個人研究 A (自由テーマ)

「円筒土器文化における文様割付の研究」

小林 謙一 (中央大学文学部)

個人研究 B (自由テーマ)

「三内丸山遺跡からみた貯蔵食物害虫 *Sitophilus* 属の生態と進化過程の研究」

小畑 弘己 (熊本大学文学部)

② 円筒土器文化総合研究データベース作成

三内丸山遺跡では、平成4年の発掘調査開始以来、縄文文化研究を先導し、幾多の重要な成果をあげてきた。円筒土器出土遺跡は年々増加しており、改めて現状を把握する必要性が生じている。

そこで、三内丸山遺跡保存活用推進室（以下、推進室）では、円筒土器文化研究の第一線で活躍する4道県の研究者からなるプロジェクトチームとNPO法人「縄文発信の会」の協力を得て、平成24・25年度の二ヵ年計画で円筒土器文化総合研究データベース（以下、データベース）を作成することとした。

このデータベースには、円筒土器出土遺跡の内容を悉皆的に確認し、時期や出土遺物・遺構に関するデータをまとめる予定である。

データベース作成手順

- ① 円筒土器文化の中心地域である北海道南部、青森、秋田、岩手については、各道県の教育委員会が管理する遺跡台帳に記載されている縄文時代前・中期の遺跡から円筒土器出土遺跡を抽出する。
- ② 円筒土器文化の周縁地域である北海道東・北部、北陸地方及び南東北については、文献情報から、円筒土器出土遺跡を抽出する。
- ③ 各遺跡の内容が記された発掘調査報告書や論文等、関連文献の書誌一覧を作成する。
- ④ 関連文献から遺跡の基本情報（所在地・緯度/経度・立地・標高・地形区分・発掘調査面積）を確認し、一覧表を作成する。
- ⑤ 集落遺跡の性格を把握するため、遺構と遺物の内容を確認する。
 - ・遺構（竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、土坑墓、埋設土器、盛土、貝塚）
 - ・遺物（石器および土・石製品の器種、有機質遺物）
- ⑥ 遺構・遺物の名称や形状、付帯施設の構造

について、統一した基準を設定しデータを抽出する。

⑦ 遺構の数量や、遺物の組成に関するデータを抽出する。

この作業と並行して、円筒土器文化に関連する主要な報告書・論文を集め、電子書籍化を進めている。関連文献に容易にアクセスできる書誌データ一覧を作成し、円滑なデータ検索が行えるシステムの構築に努めている。

データベース作成検討会（以下、検討会）を定期的に行うことで、データ項目や作成方法についての意見交換を行う場を設けた。

平成24年度は下記の日程で二回の検討会を開催し、円筒土器の型式区分や各地域で独自に設定された「地方型式」の内容について議論を交わし、円筒土器文化研究の課題共有を図った。

プロジェクトチーム構成員

青森県 岡田 康博（青森県教育庁文化財保護課）
全体作業統括者

小笠原雅行（青森県教育庁文化財保護課
埋蔵文化財グループ）

秋田県 小林 克（秋田県埋蔵文化財センター）
嶋影 壮憲（大館市教育委員会 郷土博物館文化財保護係）

岩手県 星 雅之（公益財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査センター）

北海道 福田 裕二（函館市教育委員会 生涯学習部文化財課）

三内丸山遺跡保存活用推進室専門職員

○第1回検討会議

日時：平成24年10月8日（月）

会場：縄文時遊館

内容：データベースに盛り込むべき項目、遺物の分類基準について意見交換を行った。円筒土器諸型式についての共通理解を確認し、円筒土器に併行する地方型式（「茂屋下岱式」、「狐

岱式」等)の位置づけ、石器の器種分類や、データ抽出の際に並行して拾い上げるべき属性についても議論した。

○第2回検討会議

日時：平成24年2月11日(月)

会場：縄文時遊館

内容：円筒土器の直前・直後型式の研究動向を確認し、データベースの対象とすべき時期の範囲について意見交換を行った。

円筒土器の直前型式については、円筒土器文化の成立を考える上で重要であるため、4道県



第2回検討会議の様子

における白座式、深郷田式、早稲田6類の様相を確認した。

また、北海道の前・中期の土器編年と円筒諸型式の関係について共通理解を諮った。

平成24年度の作業状況と成果

4道県の遺跡台帳と発掘調査報告書の悉皆的な内容確認を行い、円筒土器出土遺跡の抽出と書誌一覧の作成を行った。

作業の結果、4道県に分布する円筒土器出土遺跡は、841遺跡に上ることがわかった。

また、遺跡の位置情報から、円筒土器出土遺跡の地理的な分布を確認し、土器型式毎に変化する様子や近接する大木式土器文化圏との境界の様子も捉えることができるようになった(図1)。

平成24年度の作業では、各遺跡の遺構・遺物の内容の確認に留まり、遺構の数や遺物の出

土量に関する情報が加えられていない。

また、円筒土器文化に特有であると評価されている石器の器種やマツリの道具の存在が知られているが、それらが対象地域の中でどのよう

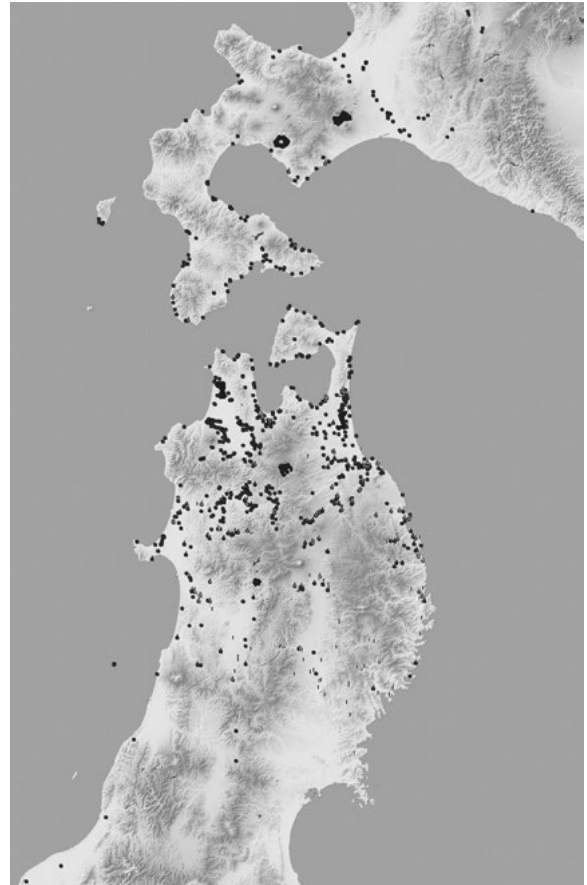


図1 円筒土器出土遺跡の位置

に分布するのか確認していくことも重要である。

次年度の作業では、各遺跡の遺構・遺物に量的な情報を与え、個々の遺跡がもつ特徴をより深く掘り下げてデータの充実を図る。

データの公開について

平成25年度末に開催される三内丸山遺跡報告会において、最終的な研究成果の公表を行う予定である。また、公式ホームページ(<http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/>)上には、平成24年度の事業の成果として、円筒土器出土遺跡一覧と円筒土器文化関連文献一覧を公開している。

③ 普及啓発

(1) シンポジウム等

○縄文塾宵待ちフォーラム

日時：平成24年9月1日（土）

15：30～17：00

会場：縄文時遊館（縄文シアター）

主催：縄文大祭典実行委員会（共催：青森県、
青森県教育委員会）

パネリスト：菊池徹夫（早稲田大学名誉教授
縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委
員会委員長）

岡田康博（青森県教育庁文化財保護課長）

テーマ：縄文のにぎわい

○縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム

日時：平成24年12月15日（日）

13：30～16：25

会場：青森市観光物産館（アスパム）

主催：縄文遺跡群世界遺産登録推進本部

テーマ：「北海道・北東北を中心とした縄文
遺跡群」の世界遺産登録に向けて

内容：

①「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」
を構成する青森県の9遺跡

②「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」
の世界遺産登録に向けた取組

縄文遺跡群世界遺産登録推進会議座長

岡田 康博（青森県教育庁文化財保護課長）

○縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム

日時：平成25年1月27日（日）

10：00～17：00

会場：有楽町朝日ホール

主催：縄文遺跡群世界遺産登録推進本部

パネリスト：菊池徹夫（早稲田大学名誉教授

縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委
員会委員長）

岡田康博（青森県教育庁文化財保護課長）

テーマ：「北海道・北東北を中心とした縄文
遺跡群」の世界遺産登録に向けて

内容：

①「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」
を構成する18遺跡について

②「『北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群』
の世界遺産登録に向けた取組」

縄文遺跡群世界遺産登録推進会議座長

岡田 康博（青森県教育庁文化財保護課長）

○三内丸山遺跡報告会

日時：平成25年3月16日（土）

13：00～15：00

会場：縄文時遊館（縄文シアター）

主催：青森県教育委員会

内容：第1部 発掘調査成果報告

「平成24年度三内丸山遺跡発掘調査成果報告」
青森県教育庁文化財保護課 三内丸山遺跡保
存活用推進室

第2部 特別研究成果報告

「円筒土器文化における文様割付の研究」

小林 謙一（中央大学文学部）

「三内丸山遺跡からみた貯蔵食物害虫

Sitophilus 属の生態と進化過程の研究」

小畑 弘己（熊本大学文学部）

第3部 円筒土器文化総合研究報告

「円筒土器文化の集落データベース作成によ
る研究」

青森県教育庁文化財保護課 三内丸山遺跡保
存活用推進室

(2) 企画展及び最新情報展

三内丸山遺跡への理解を深めてもらうため、調査及び研究で明らかとなった最新情報による、企画展及び最新情報展を開催した。

①「円筒土器文化展」

期間：平成24年7月20日(土)～12月9日(日)

内容：三内丸山遺跡は縄文時代前期中頃から中期にかけて、東北地方北部から北海道南部に展開した「円筒土器文化」の代表的な遺跡である。三内丸山遺跡を中心に、円筒土器文化に関する研究の歴史、土器の特徴、自然環境、集落のようすなどについて、多角的に考察を加えた展示を行った。また、この展示から導き出された今後の研究の課題も紹介した。



「円筒土器文化展」展示状況

②「三内丸山遺跡の石棒・石刀展」

期間：平成24年12月15日(土)～平成25年3月10日(土)

内容：円筒土器文化を代表する遺跡である三内丸山遺跡では、縄文時代中期の祭祀に使用あるいは関連すると考えられる遺物が多数出土している。土偶が代表的な遺物であるが、石棒・石刀もよく知られている祭祀的遺物である。三内丸山遺跡における最近の調査で、これらの石棒や石刀がまとめて確認できたため、その特徴などを広く知ってもらうことを目的に展示を行った。



「三内丸山遺跡の石棒・石刀展」展示状況

③「第36次発掘調査速報展 西盛土の発掘調査」

期間：平成25年3月15日(金)～9月8日(日)

内容：平成24年度に発掘調査した三内丸山遺跡の西盛土に関する成果報告を行った。出土した土器・石器・土製品・石製品、調査時の写真などを展示した。今年度の第1回企画展「円筒土器文化展」において、盛土のコーナー展示を行ったことから、その内容も再構成しながら紹介した。

(3) 三内丸山縄文教室

三内丸山遺跡では、発掘調査から得られた成果をもとに、縄文時代の生活の一端を体験する「さんまる縄文体験」を、平成8年度から実施している。また、平成21年度からは、高校生以上の大人向けに、体験と講義をセットにした「さんまる縄文講座」を開催している。

「さんまる縄文体験」

平成24年度は6月から11月までの土・日曜日に、1回コースを7回、2回コースを1回の計9回行った。できるだけ縄文時代と同じ材料を使い、より専門性を求めて、講師を依頼したものもある。

また実施にあたっては、いずれも三内丸山店

援隊の協力を得た。

【1回コース】

①「石のナイフを作ろう！」

実施日：平成24年5月12日（土）

内容：黒曜石や頁岩でナイフを製作し、使用体験を行った。使用体験では、野菜などの切断やヒバの細棒を石のナイフで削ってマイ箸を作った。

講師：文化財保護課職員

参加者：27名

②「イノシシの骨のぬい針と針入れを作ろう！」

実施日：平成24年6月16日（土）

内容：イノシシの肋骨の縫い針と、木製の針入れを製作した。

講師：文化財保護課職員

参加者：19名

③「貝で作るアクセサリ！」

実施日：平成24年7月21日（土）

内容：ベンケイガイで腕輪を作り、製作途中で割れたベンケイ貝とマクラガイを組み合わせた首飾りを製作した。

講師：文化財保護課職員

参加者：16名



貝で作るアクセサリ！

④「土偶のレプリカ作り！」

実施日：平成24年8月11日（土）

内容：遺跡から出土した土偶の複製品を製作した。

講師：堀江 武史 氏（府中工房）

参加者：13名

⑤「弓矢を作ってみよう！」

実施日：平成24年9月22日（土）

内容：ヒバ・イチイの枝で弓を製作し、ヒバ製の鏃（ヘラ状木製品）を製作し、ニジマスに射る体験に使用した。

講師：文化財保護課職員

参加者：28名



弓矢を作ってみよう！

⑥「シカの角で作る釣り針作り！」

実施日：平成24年10月20日（土）

内容：鹿角で釣り針を製作し、実際にニジマスに釣る体験を行った。

講師：文化財保護課職員

参加者：24名

⑦「縄文ペイント体験！」

実施日：平成24年11月17日（土）

内容：赤鉄鉱を粉碎し精製したベンガラを土器に塗る体験を行った。

講師：文化財保護課職員

参加者：12名

【2回コース】

①「縄文土器と土偶を作ろう①」

実施日：平成24年7月14日（土）

内容：遺跡周辺で採取した粘土で土器や板状土
偶を製作した。

講師：誉田 実氏（陸奥美窯）

参加者：21名

②「縄文土器と土偶を作ろう②」

実施日：平成24年9月15日（土）

内容：①で作った土器・土偶を野焼きした。

講師：文化財保護課職員

参加者：20名



縄文土器と土偶を作ろう②（野焼き）

「さんまる縄文講座」

平成24年度は、6月から10月までの土・日曜日に、「縄文の家作り」をテーマとして5回の講座を行った。

第1回「縄文人の家について」

実施日：平成24年6月23日（土）

内容：縄文時代の竪穴住居についての講義と、
竪穴住居の模型作りを行った。

講師：文化財保護課職員

参加者：26名

第2回「家の材料について」

実施日：平成24年7月7日（土）

内容：竪穴住居の材料と当時の森林資源の利用
状況などについて講義を行った後、復元製作
した石斧を使用してニセアカシアの立木の伐
採と樹皮剥き体験を行った。

講師：文化財保護課職員

参加者：22名

第3回「家の構造について」

実施日：平成24年8月26日（日）

内容：竪穴住居の軸組構造などについての講義
を行った後、石斧を使った仕口の加工体験を
行った。

講師：文化財保護課職員

参加者：24名

第4回「家の屋根と内部」

実施日：平成24年9月2日（日）

内容：竪穴住居の屋根や内部のようすについて、
岩手県一戸町の御所野遺跡の例を中心に講義
を行った後、石器でススキを刈り取る体験や
シナ繊維で縄をなう体験を行った。

講師：高田和徳氏（御所野縄文博物館館長）

参加者：23名

第5回「家に住もう」

実施日：平成24年10月13日（土）

内容：復元竪穴住居内の居住実験結果や、民族
誌などから竪穴住居内の住み心地について講
義を行った。

講師：文化財保護課職員

参加者：26名

（4）三内丸山遺跡魅力アップ推進事業

〈1〉「さんまるムラづくり体験事業」

①縄文の家づくり体験

期間：平成24年6月27日～10月13日

回数：一般県民 6回 小学校 5回

参加対象

〈一般〉 募集期間：平成24年5月25日～6
月22日

募集定員：一般県民 30 名

応募者：34 名 延べ参加者：127 名

<学校>

参加校：青森市立三内西小学校 4 学年 89 名

応援隊 10 名

活用する竪穴住居：

土葺き竪穴住居（第 3 2 4 号）

樹皮葺き竪穴住居（第 3 4 5 号）

②縄文講座（勉強会）

「縄文の家作り」をテーマに 5 回の講座を行った。

期間：平成 24 年 6 月 23 日～10 月 13 日（全 5 回）

募集定員：一般県民 30 名

応募者：34 名

延べ参加者：121 名

内容については、11 ページの「さんまる縄文講座」を参照。

③さんまる発掘体験

実施日：平成 24 年 8 月 17 日（金）

内容：発掘体験・測量体験を行った。

参加者：20 名

【縄文の家づくり体験概要】

(1) 樹皮葺き竪穴住居（345 号）の復元

①解体と観察（平成 24 年 6 月 27 日（水））

・参加者：関係団体（三内丸山応援隊）6 名

* 体験内容が体力の要するものについては、一般大人が参加することとした。

・内 容：樹皮屋根の取り外し、軸組の取り外し、状況の観察を行った。

②材料準備（平成 24 年 7 月 17 日（火））

・参加者：三内西小学校 89 名

・内 容：

ア クリ材丸太の樹皮剥き体験

直径 10 c m、長さ 2 m のクリ材を木のく

さび、木槌を使って剥いた。剥いた樹皮は屋根材の一部として使用することとした。

イ 石斧でクリ丸太を分割する

アの丸太を長さ 40cm 程度に切断した。復元石斧は、ミズナラの直柄に北海道産アオトラ石（緑色岩）を使用した刃を装着した。

ウ イの丸太の縦割り体験

木のくさびと木槌を使用し、丸太材を半割した。成果品は参加者の名前等を印し、腰板として設置する予定とした。

③軸組組立（平成 24 年 9 月 5 日（水））

・参加者：応援隊 8 名

・内 容

ア 事前作業（業者）

四ツ又及び上中下の 3 段の曲がり母屋を設置し、垂木を立てかけた。

イ 支柱及び母屋に、垂木を立てかけ、フジ蔓で結束した。

ウ シナノキ繊維の縄ない

シナノキ樹皮から採取した繊維を使用し、縄をなった。シナノキ繊維は、樹皮を 1 ヶ月ほど水漬けにした後、内皮だけを採取したものである。

④屋根葺き（平成 24 年 9 月 12 日（水））

・参加者：三内西小学校 89 名

・内 容：

ア 四ツ又組立方法の確認

イ 石錐（木の枝の先に頁岩製の復元品をつけたもの）による屋根用樹皮への穴あけ体験

ウ フジ蔓による垂木と母屋の結束体験

エ シナノキ繊維の縄ない体験

オ 樹皮を屋根材として取り付ける方法の観察を行った。

⑤完成仕上げ（平成 24 年 10 月 2 日（火））

・参加者：三内西小学校 89 名

・内 容：全員縄文服に着替え、土器（レプリカ）設置、出入口の巻き簾設置、扉の設置等



樹皮屋根材の取付け

を行い、家を完成させた後、さんまる縄文人の認証・宣言等を行った。

(2) 土葺き竪穴住居（324号）の復元

①解体と観察（平成 24 年 7 月 1 日（日））

・参加者：一般県民 21 名

・内 容：

ア 屋根土の堆積状況記録と除去

屋根土の堆積状況を確認した後、掘り棒、箕を使用し、屋根土を除去した。

イ 屋根下地の状況記録と除去

土屋根下地の茅の状況と結束状況等を記録し、除去した。

ウ 小屋組の構造観察と撤去

傷み具合を観察し、解体した。その結果、垂木と棟木が折れていることが判明したため、復元の際に構造補強を行うこととした。

②材料準備（平成 24 年 7 月 22 日（日））



解体と除去の様子

・参加者：一般県民 17 名

・内 容：

ア 石斧による垂木尻の加工

復元した石斧を使用し、垂木尻が地面に安定するように加工した。

イ 垂木の根本を焼く

防腐処置として、根本 20cm を焼いた。

ウ クリ丸太の樹皮剥き

木のくさびと木槌を使用し、樹皮を剥いた。

エ 樹皮を剥いた丸太の切断

復元石斧で長さ 40cm 程に切断し、さらにくさびを使って半割する。

③組立（平成 24 年 8 月 26 日（日））

・参加者：一般県民 22 名

・内 容：

<事前準備>

前日までに、棟持柱（むなもちばしら）と棟木（むなぎ）、又首（さす）、母屋（もや）が組まれた状態とした。

ア 又首に母屋を結束する。

結束の材料としてフジ蔓を準備し結束した。

イ 上垂木を渡し、母屋に結束する。

ウ 復元石斧を使い、出入口部材の相欠仕口を加工した。

エ 出入口部分を組立てた。

④屋根葺き（下地茅葺き）（平成 24 年 9 月 2 日（日））



軸組組立の様子

- ・参加者：一般県民 25 名
- ・内 容：

ア 下地茅の設置と結束

直径約 15cmの茅束を横置きにして縄と槍を使用し、垂木に結びつけた。

⑤屋根葺き(土葺き)(平成 24 年 9 月 15 日(土))



下地茅の設置と結束の様子

- ・参加者：一般県民 16 名
- ・内 容：

ア 土を葺く

赤土、土タタキ、(一輪車、スコップ、箕)を使用し、屋根裾にソダ材を置いた上に赤土を被せ、土タタキでたたき締めた。

イ 住居内設備の製作

出入口用のすだれと内部の物置用の火棚を作る。前回作ったシナ縄を使用した。

⑥完成仕上げ(平成 24 年 10 月 13 日(土))

- ・参加者：一般県民 27 名
- ・内 容：

ア 仕上げ

前回締めた土が流れないように、芝生を貼り、内装物を設置して完成させた。

イ さんまる縄文人認証

一定以上の回数を参加した参加者 24 名を「さんまる縄文人」として認定し、今後、三内丸山遺跡を県の宝として次世代に継承しながら守っていく事を宣言した。



完成イベントの様子

〈2〉「さんまる魅力発信事業」

当該事業では、縄文文化と三内丸山遺跡の魅力と価値を国内外に強力に発信し、見学者の増加を図るため、次の事業を実施した。

①学校見学者向けのホームページの作成

修学旅行・校外学習への活用を促進するため、具体的な体験プログラム等トータルで情報が得られる学校向けページを作成し、また、見学時に活用可能なワークシートを作成した。

②縄文時遊館シアター映像制作事業

最新情報による縄文シアター映像(多言語対応)を制作した。また、シアター視聴誘導及び見学ルート案内のためのリーフレット(6万部)を作成した。

(5) 印刷物の発行

①『特別史跡三内丸山遺跡年報』16

A 4 70 ページ 500 部発行

平成 24 年度の事業、見学者の動向、研究ノート、特別研究推進事業成果概要報告、日誌抄録

②『青森県埋蔵文化財調査報告書 第 533 集 三内丸山遺跡 40 - 旧野球場建設予定地発掘調査報告書 13 北盛土(2) -』

A 4 293 ページ 370 部発行

平成 4～6 年度に調査した、旧野球場建設予定地の発掘調査のうち、北盛土の土・石製品および土器・石器の補遺に関する報告書。

③「三内丸山通信」

A 3 両面刷り 各 3000 部発行

三内丸山遺跡の調査、イベント、トピックスなどの最新情報を掲載したニュースレター。

【第 54 号 (平成 24 年 4 月 19 日発行)】

- ・遺跡報告会開催！特別研究の成果報告！
- ・平成 23 年度第 3 回企画展「西盛土の発掘調査」のお知らせ
- ・縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラムを開催！（東京都）
- ・四季の縄文 DAY「三内丸山縄文冬祭り」が開催されました
- ・「三内丸山縄文春祭り」が開催されます
- ・春から「さんまる縄文体験・縄文講座」がはじまります

【第 55 号 (平成 24 年 7 月 23 日発行)】

- ・発掘調査はじまる
- ・平成 24 年度第 1 回企画展「円筒土器文化展」のお知らせ
- ・体験学習はじまる！
- ・縄文春祭り開催

- ・縄文大祭典のお知らせ
- ・縄文壁新聞・縄文 CM 原作募集
- 【第 56 号 (平成 24 年 12 月 18 日発行)】
- ・発掘調査終了！
- ・各種イベントのお知らせ
- ・縄文の家が完成！
- ・6,500,000 人達成！
- ・世界遺産登録推進国際シンポジウムを開催！

※年報、三内丸山通信、遺跡 P R 冊子については、ホームページに掲載している。



三内丸山通信 第 54 号

(6) 資料貸出

平成 24 年度の出土遺物及びレプリカの貸し出し状況は以下のとおりである。

①青森県立郷土館 常設展示

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

土器等 33 点

- ②山形県立博物館 企画展「豊穰と祈り - 縄文女神たちの宴と古墳時代人の想い」

平成 24 年 6 月 16 日～平成 24 年 9 月 22 日
土偶等 24 点、大型板状土偶レプリカ 1 点

- ③MIHO MUSEUM 企画展「土偶・コスモス」

平成 24 年 8 月 10 日～平成 24 年 12 月 25 日
岩偶 1 点

- ④青森県立美術館 企画展「超群島 - ライト・オブ・サイレンス展」

平成 24 年 6 月 4 日～平成 24 年 7 月 13 日
報告書非掲載土器 100 箱

- ⑤御所野縄文博物館 企画展「縄文時代の墓」

平成 24 年 9 月 6 日～平成 24 年 10 月 26 日
埋設土器 1 点

- ⑥秋田県立博物館 企画展「アンダー×ワンダー！」

平成 24 年 9 月 5 日～平成 24 年 12 月 7 日
土器・土偶・黒曜石製石器等 4 点

- ⑦北海道環境生活部くらし安全局 道民活動文化振興課世界遺産推進室

世界遺産登録推進事業「世界遺産をめざして - 北の縄文・パネル展 2012」

平成 24 年 10 月 9 日～平成 24 年 10 月 26 日
土偶・岩偶レプリカ等 2 点

- ⑧國學院大學学術資料館 企画展「身体に見立てられた土器」

平成 25 年 1 月 25 日～平成 25 年 4 月 15 日
土器破片 10 点

(7) 講演会等

三内丸山遺跡に対する理解や関心を深めてもらうため、主催者の依頼に応じた講義を行った。平成 24 年度に行った講義等は、次のとおりである。

8 月 1 日

「三内丸山遺跡の概要について」

平成 24 年度初任者研修「ふるさとの教育研修講座」講義

青森市教育委員会

場所：三内丸山遺跡

8 月 9 日

「郷土の文化を学ぶ」

平成 24 年度初任者研修（小・中学校）「教職一般研修講座」講義

青森県教育委員会

場所：青森県総合学校教育センター

○世界遺産縄文講座

6 月 22 日

青森大学

受講者：オープンカレッジ受講生・学生 333 名

講師：文化財保護課長

場所：青森大学

7 月 17 日

弘前市立青柳小学校

受講者：6 学年生 13 名

講師：文化財保護課職員

場所：弘前市立青柳小学校

8 月 27 日

青森市立泉川小学校

受講者：6 学年生 100 名

講師：青森県知事・文化財保護課職員

場所：青森市立泉川小学校

8月30日

弘前市立北小学校

受講者：6 学年生 67 名

講師：文化財保護課職員

場所：弘前市立北小学校

8月31日

七戸町立天間東小学校

受講者：3 学年生（13 名）・4 学年生（18 名）
5 学年生（15 名）・6 学年生（20 名）

講師：文化財保護課職員

場所：七戸町立天間東小学校

9月7日

青森住友大阪コン会・技術部会

受講者：80 名

講師：文化財保護課長

場所：浅虫温泉

10月25日

青森市町会連合会西部地域協議会

受講者：青森市西部地域の町会長 45 名

講師：文化財保護課長

場所：西部市民センター

11月1日

外ヶ浜町立蟹田小学校

受講者：5・6 学年生（56 名）

講師：文化財保護課職員

場所：外ヶ浜町立蟹田小学校

11月21日

青森県労働者福祉協議会

受講者：65 名

講師：文化財保護課職員

場所：青森県労働福祉会館

12月5日

青森中央学院大学

受講者：学生・一般市民 150 名

講師：文化財保護課長

場所：青森中央学院大学

(8) 縄文時遊館で開催したイベント

平成 24 年度に縄文時遊館で行ったイベント（普及啓発プログラムを除く）は以下のとおりである。

○縄文春祭り

主催：青森県教育庁文化財保護課

実施日：平成 24 年 4 月 28 日～5 月 6 日

内容：縄文パノラマビュー（高所作業車に乗って遺跡を空中から見学）、縄文ファッションで記念撮影、チャレンジ！ザ・じょうもん（木のくさびで丸太割り、石の斧で木工体験）、クイズラリー、津軽三味線ライブなどを開催した。



「チャレンジ！ザ・じょうもん」実施状況

○縄文夏祭り

主催：三内丸山文化観光拠点づくり支援協議会

実施日：平成 24 年 7 月 28 日～8 月 19 日

内容：紙飛行機教室、シャボン玉教室、こんちゅ

う教室、クイズラリー等を開催した。

○第14回縄文大祭典

主催：縄文大祭典実行委員会

実施日：平成24年9月1日・2日

内容：現地説明会、縄文ワークショップ（「ささやきの壁」、「踊るドグチャン!?アニメと音の体感ワークショップ」）、縄文宵待ちフォーラム「縄文のにぎわい」、お月見コンサート、月の宴、縄文の家づくり体験、縄文手しごと楽しく市、クイズラリー、縄文パノラマビュー、縄文生活体験コーナー、縄文グッズ作り体験を開催した。

○時遊館開館10周年記念三内丸山縄文まつり

主催：三内丸山文化観光拠点づくり支援協議会

実施日：平成24年11月23日～25日



「森の恵みで遊ぼうクラフト展」実施状況

内容：縄文ものづくり体験（勾玉、組紐、土偶の手作り）、遊んで学んでさんまる教室（輪投げ・射的・ドッチビー遊び、縄文の暮らしについて「クイズ」と「むかし語り」）、三内西小学校音楽部演奏、森の恵みで遊ぼうクラフト展、バスケットビンゴ、縄文鍋無料ふるまい、棒パン作り無料提供、りんごジュース無料ふるまい、津軽三味線演奏等を開催した。



「大型すべり台で遊ぼう」体験状況

○縄文冬祭り

主催：青森県教育庁文化財保護課

実施日：平成25年2月16・17日

内容：クイズラリー、雪だるまコンテスト、大型すべり台で遊ぼう、雪中宝さがし大会、縄文グッズ作り体験、縄文生活体験コーナーを開催した。

○縄文グルメコンテスト

実施日：平成24年10月27日（本審査）

内容：県内の学生から縄文時代の食材と調理法を使用した料理のレシピを募集し、1次審査を通過した6組による公開調理、及び試食による本審査を行った。グランプリは、弘前実業高校のどんぐりころころさん作の「マダイの蒸し煮」である。このレシピを元にしたメニューが平成25年2月16・17日に縄文時遊館内のレストラン五千年の星にて一日限定20食提供された。



縄文グルメコンテスト

II 平成 24 年度の見学者動向について

(1) 遺跡見学者数及びさんまるミュージアム見学者数

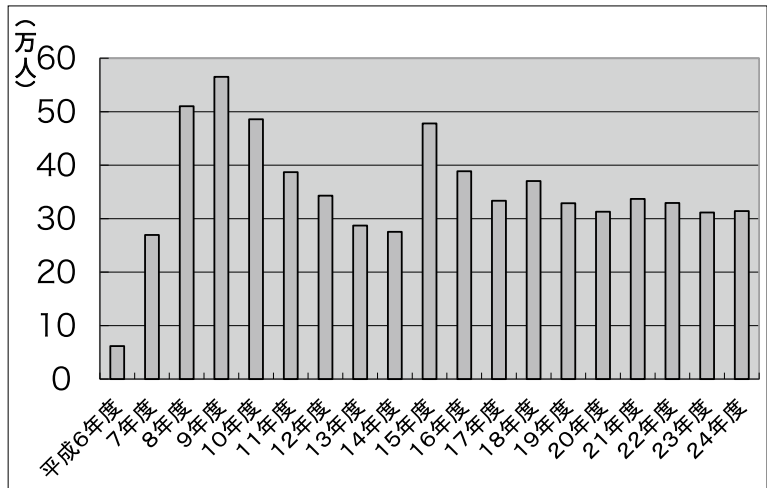
平成 24 年度の遺跡見学者数は 314,235 人、うち「さんまるミュージアム」(以下ミュージアム)の見学者数は 153,793 人である。

月ごとの遺跡見学者数は多い順から 8 月、9 月、5 月となっている。これはねぶた祭り、縄文大祭典等のイベントによる観光客の増加が要因であると考えられる。また、冬期の見学者数については例年同様 12 月～3 月にかけて落ち込んでいる。ミュージアムの見学者数は、遺跡見学者数の 48.9%である。冬期間(1～3月)

におけるミュージアムの見学者割合が 78.1%と高く、夏期間(7～9月)における割合が 43.3%と少ない。

冬期間の割合が高い理由としては、個人見学者の割合が高く、一般団体見学者に比べ時間に余裕があるためと推測される。また、ミュージアムが縄文時遊館内に開設されたことから、冬期であっても天候に左右されず見学する人も多いためと考えられる。

年度	見学者数	前年比
平成 6 年度	61,807	-
7 年度	269,597	436.2
8 年度	510,337	189.3
9 年度	565,376	110.8
10 年度	485,917	85.9
11 年度	387,021	79.6
12 年度	343,050	88.6
13 年度	287,182	83.7
14 年度	275,551	95.9
15 年度	478,165	173.5
16 年度	388,652	81.3
17 年度	333,583	85.8
18 年度	370,447	111.1
19 年度	328,815	88.8
20 年度	312,964	95.2
21 年度	337,035	107.7
22 年度	329,374	97.7
23 年度	311,513	94.6
24 年度	314,235	100.9
計	6,690,621	

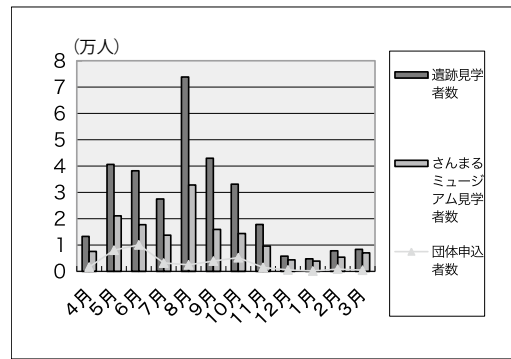


グラフ 1 平成 24 年度までの遺跡見学者数

表 1 平成 24 年度までの遺跡見学者数

月	遺跡見学者数	団体申込者数	さんまるミュージアム見学者数
4 月	13,278	1,664	7,609
5 月	40,621	8,077	21,089
6 月	38,237	10,083	17,730
7 月	27,498	3,181	13,786
8 月	73,875	2,507	32,813
9 月	42,970	3,942	15,961
10 月	33,111	5,216	14,399
11 月	17,856	1,526	9,646
12 月	5,833	568	4,387
1 月	4,751	169	3,910
2 月	7,809	881	5,416
3 月	8,396	476	7,047
計	314,235	38,290	153,793

表 2 平成 24 年度見学者数



グラフ 2 平成 24 年度見学者数

(2) 団体見学者の傾向

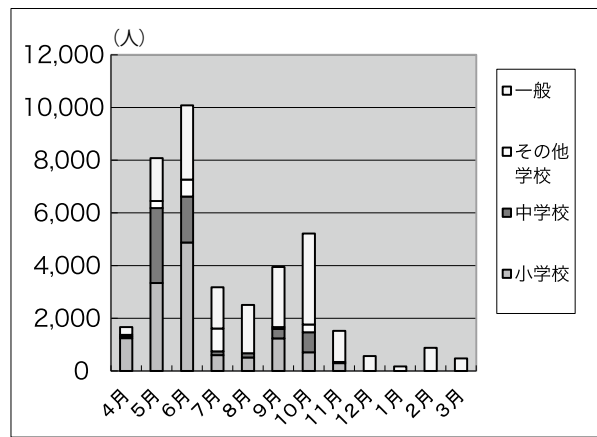
団体の見学者数は38,290人で、見学者全体に占める割合は12.2%である。このうち県内の利用は約30.1%で、小学校の利用が多い。また、県外からの利用は約69.9%で、一般団体と小学校の利用が多い。団体見学者が最も多いのは6・5・10月で、5・6月は修学旅行などの学校見学者が70%以上を占める。9月は学校関係者は少なく一般見学者が多い。8月は遺跡全体の見学者が最も多いが、団体見学者の割合は少ない。

これは、ねぶた期間中は見学者が集中するため、定時ガイドを増やすことで対応し、団体予約を受け付けていないためである。また、冬期の団体見学者は少なく、学校団体の見学はほとんどない。

修学旅行での利用は、小学校が約62%を占め、地域別では北海道が多い。これは、修学旅行生全体の50%を占める。その他の地域の利用割合は、昨年度と比較すると関東地域の学校が増加している。震災の影響を受けた平成23年度の

月	小学校		中学校		その他学校		一般		総計	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
4月	25	1,247	2	53	1	66	13	298	41	1,664
5月	53	3,335	30	2,850	6	264	77	1,628	166	8,077
6月	78	4,874	14	1,744	7	645	104	2,820	203	10,083
7月	16	600	4	140	6	871	85	1,570	111	3,181
8月	10	516	4	154	0	0	83	1,837	97	2,507
9月	26	1,233	7	361	3	75	94	2,273	130	3,942
10月	15	707	4	762	4	298	136	3,449	159	5,216
11月	8	301	1	37	0	0	45	1,188	54	1,526
12月	0	0	0	0	0	0	20	568	20	568
1月	0	0	0	0	0	0	14	169	14	169
2月	0	0	0	0	0	0	28	881	28	881
3月	0	0	0	0	0	0	20	476	20	476
計	231	12,813	66	6,101	27	2,219	719	17,157	1,043	38,290

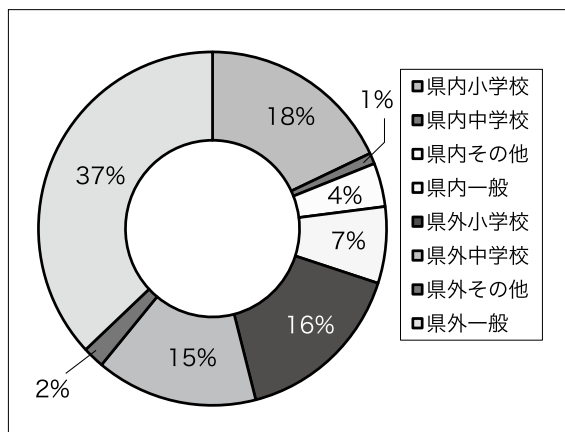
表3 平成24年度団体見学者数



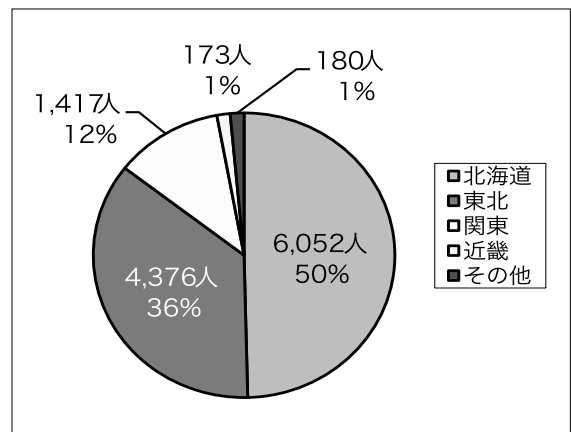
グラフ3 平成24年度団体見学者数

県内外別	小学校		中学校		その他学校		一般		総計	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
県内	132	6,836	9	416	19	1,567	103	2,705	263	11,524
県外	99	5,977	57	5,685	8	652	616	14,452	780	26,766
計	231	12,813	66	6,101	27	2,219	719	17,157	1,043	38,290

表4 平成24年度団体見学者の地域別見学者数



グラフ4 平成24年度団体見学者数の割合



グラフ5 平成24年度修学旅行生の地域別割合

小学校 90%、東北 85%と比較すると、北海道・東北の小・中学校の修学旅行が震災前の行き先に戻りつつある傾向を示している。

また、県内の学校団体では、小学校に比べて中学校の利用は少ない。

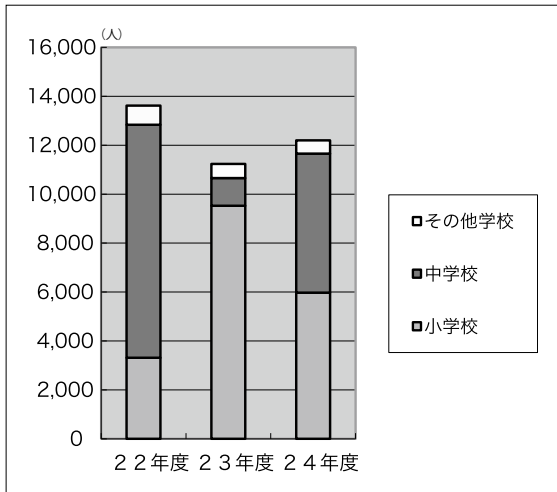
平成 24 年度の学校団体の見学者数は、県外で 12,314 人、県内で 8,819 人となっている。

県外の学校の見学者数は、昨年度と比較すると中学校・その他学校で増加し、小学校で減少している。

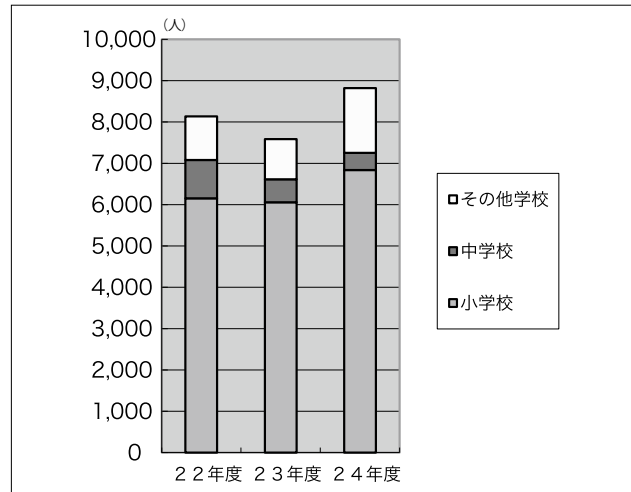
また、県内学校については、昨年度と比較すると小学校・その他学校で増加し、中学校で減少している。

註) カウント方法、カウント場所は次のとおりである。

- ・遺跡・ミュージアム見学者数：縄文時遊館入口でセンサーによりカウント
- ・団体見学者数：事前に見学申込のあった団体見学者で三内丸山応援隊がカウント



グラフ 6 県外学校の見学者数



グラフ 7 県内学校の見学者数

年度	小学校		中学校		その他学校		総計		前年比 (%)	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
22年度	65	3,314	92	9,529	5	776	162	13,619	100.0	103.1
23年度	173	9,521	14	1,135	6	575	193	11,231	119.1	82.5
24年度	99	5,977	57	5,685	8	652	164	12,314	85.0	109.6

表 5 県外学校の見学者数

年度	小学校		中学校		その他学校		総計		前年比 (%)	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
22年度	131	6,154	14	926	13	1,054	158	8,134	108.2	108.3
23年度	120	6,058	10	555	20	970	150	7,583	94.9	93.2
24年度	132	6,836	9	416	19	1,567	160	8,819	106.7	116.3

表 6 県内学校の見学者数